

研究論文

要旨

評価のモダリティを表す助動詞「べきだ」は、中級で勉強する重要な文法項目である。本稿は、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を用いて、「べきだ」のコロケーションとコンテキストに注目し、「べきだ」の前後にどのような表現がよく共起するのか、どのようなレジスターで使用されているのか等を調査した。その結果、「べきだ」は動詞が前接することが多く、その中でも「～にすべきだ」という形でよく用いられていること、「べきだ」の後ろの形で最も多いのは「べきだと思います／思う」であり、「べきだ。」という言いきりの形で使われることは少ないこと、「べきだ」は書きことばでも話しことばでもよく使われることなどを明らかにした。

キーワード

「べきだ」、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)、中納言、コロケーション、助動詞

1. はじめに

評価のモダリティを表す助動詞「べきだ」は、中級で勉強する重要な文法項目である。本稿の目的は、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を用いて¹、「べきだ」のコロケーションとコンテキストに注目し、「べきだ」の前後にどのような表現がよく共起するのか、どのようなレジスターで使用されているのか等を明らかにすることである。また、学習者が「べきだ」を用いて文を作ったり、日本語教師が「べきだ」に関する例文を作ったりする際のヒントとなるようなデータを提供する。

2. 「べきだ」の意味について

まず、「べきだ」の意味について先行研究の記述を概観し、実例を基に分析を行う。

2.1 先行研究の記述

「べきだ」は、ある行為が妥当であると判断されることを表し、次の例(1)のように一般論を述べるのに使われることが多いが、例(2)のように特定の聞き手に対する勧めに用いられる場合もある (庵 (他) 2001 : 221)。

- (1) これからの時代は女性も仕事を持つべきだ。 (庵 (他) 2001 : 221 の(1))
- (2) 君は歌手を目指すべきだよ。才能があるんだから。 (庵 (他) 2001 : 221 の(4))

2.2 分析

先行研究で記述されているように、「べきだ」はある事態が妥当であるということを表す。次の例(3)は「べきである」という表現で、例(4)は「べきだ」という表現で、一般的な事柄について、ある事態が妥当であるという評価を表している。

- (3) 価格維持の効果が卸売業者及び小売業者の利益に沿うものであると仮定しても、不公正な取引方法に該当するか否かは客観的に判断されるべきである。
(『公正取引委員会年次報告：独占白書昭和 53 年版』0W1X_00256)
- (4) 政治だって、騒ぎたてて脅かして人々を駆りたてるのではなく、人々が静かに働けるようにすべきだ。みんながこの世界をなんとかしよう、とだけ考えていたら立ったり不安になったりしたら、かえって世界もそうなっちゃう。(『タオにつながる』PB39_00111)

また、次の例(5)と(6)のように、「べきだ」は要望や要求を表す際にも用いられる²。

- (5) アメリカの歴史全体を通じて黒人たちの果たした役割が、今までほとんど無視されてきたので、ブラック・ヒストリーやブラック・カルチャーを中心とするブラック・スタディーズの学科や学部を新設すべきだという要望が、黒人学生やこれに同調する白人の学生から高まり、毎年夏に全米で人種暴動が続発しているという実状を背景に、多くの大学がこれに取り組まなければならなくなった。(『北アメリカ』LBg2_00060)

(6) この許可制にすべきだという要求については、何らかの形で新しい法案の中に組み込まれるようなことは考えておられるのかどうか、お尋ねします。

(国会会議録 OM11_00012)

3. 「べきだ」の形式・接続について

3.1 「べきだ」の前接語について

まず、「べきだ」の前にどのような語が前接するのかについて詳細に見ていく。

3.1.1 品詞

「べきだ」に前接する表現を品詞別に見ると、次の表1のように示すことができる。

表1 「べきだ」に前接する品詞 (総数 8,051)

順位	品詞	出現数	割合
1	動詞	6,758	83.9%
2	助動詞	1,282	15.9%
3	補助記号	10	0.1%
4	形容詞	1	0.01%

表1から分かるように、「べきだ」は動詞が前接することが多く、全体の約84%を占めている。次に多いのが助動詞で、全体の約16%を占めている。今回の調査では動詞と助動詞以外の品詞が前接する例は、形容詞が1例あったのみで³、他の品詞が前接する例は見られなかった。

3.1.2 動詞

次に、「べきだ」にどのような動詞が前接するのかについて、次の表2を見てみよう。

表2 「べきだ」に前接する動詞 (総数 6,758)

順位	表現	出現数	割合
1	す	576	8.5%
2	いう (言う)	434	6.4%
3	考える	242	3.6%
4	やる	186	2.8%
5	する	174	2.6%
6	見る (みる)	123	1.8%
7	ある	105	1.6%
8	行く (いく)	84	1.2%
9	行こう	70	1.0%
10	解す	67	1.0%

表2にあるように、「べきだ」に前接する動詞は「す」が最も多い。また、「すべきだ」に前接する語の中で最も多いのは「に」(202例)である。次の例(7)や(8)のように、自分の考えを主張する際に用いられている。

- (7) 私は、昔から患者には病院のデータのすべてを明らかにすべきだという考えを持っていた。(『見慣れた景色が変わるとき』LBn9_00065)
- (8) 国の責任で各個人のデータを個人の持つICカードに入れられるようにすべきだ。(『平成官僚論』LBi3_00064)

「す」に前接する語の中で二番目に多いのは「を」(178例)である。次の例(9)のように「努力をすべきだ」、例(10)のように「議論をすべきである」という形で用いられている。

- (9) 民業圧迫と言う前に銀行は自主努力をすべきだ。(『住宅金融公庫融資の廃止・存続に関するアンケート結果報告書』PB13_00254)
- (10) 税制というのは一度導入されたならばこれは十年、二十年制度として定着していくわけだから、まず不公平税制の是正をしっかりとやる、数年じっくりと議論をすべきである、私はこのように考えております。(国会会議録 0M31_00005)

先行研究で指摘されているように、「べきだ」に「する」が前接するとき、「するべきだ」と「すべきだ」の二つの形が使われるが、BCCWJでは「すべきだ」の方が「するべきだ」よりも約3倍多く用いられている。

次に二番目に多い「いう(言う)」について見ると、「いう(言う)」の前接語として最も多いのは「と」(336例)であり、例(11)のように用いられている。また、「いう(言う)」の前接語の中で二番目に多いのは「を」(20例)であり、例(12)のように使われている。

- (11) ゴラと美術の関係を見直し、その美術評論を再読する機は熟したと言うべきであろう。(『いま、なぜゴラか』LBq9_00052)
- (12) 確かにチーム作りの状況によっては休むことがデメリットになる場合もあるかもしれませんが、それにしてもせめて科学的調査をしてデータに基づいてものを言うべきだと思います。(『学校スポーツをさせずに強くする』PB37_00147)

3.1.3 助動詞

続いて、「べきだ」に前接する助動詞に注目し、どのような表現が前接しているのかについて次の表3を見てみよう。

表3 「べきだ」に前接する助動詞（総数 1,282）

順位	表現	出現数	割合
1	(ら) れる	420	32.8%
2	ていく	223	17.4%
3	である	159	12.4%
4	(さ) せる	115	9.0%
5	ておく	101	7.9%
6	てみる	52	4.1%
7	ている	31	2.4%
8	てくる	11	0.9%
9	とく	9	0.7%
9	てもらう	9	0.7%

「べきだ」に前接する助動詞の中で最も多いのは「(ら) れる」であり、全体の約 33%を占めている。その中で最も多いのは「されるべきだ」(20 例) であり、次の例(13)のように「～とされるべきだ」の形で最も多く使われている。

- (13) 日本特許が問題となった場合でも、その侵害に外国において加担する行為は、それ自体を侵害行為として差止対象とするのは難しいにしても、違法とされるべきだと思われる。 (『ビジネス方法特許』PB45_00018)

二番目に多いのは「ていく」であり、その中でも次の例(14)のように「考えていくべきだ」が最も多く用いられている。

- (14) 二千三年の地上波デジタル以降の仕組みを併せて考えていくべきだと思います。 (『メディアショック』PB20_00069)

3.1.4 「べきだ」の前接語のまとめ

以上で見えてきたことをまとめると、次のように記述することができる。

- ・「べきだ」は動詞が前接することが多く、全体の約 84%を占めている。
- ・前接する動詞は様々であるが、その中でも「す」が最も多く前接し、「～にすべきだ」という形でよく用いられている。
- ・「べきだ」に助動詞が前接する場合、「(ら) れる」が多く用いられている。

3.2 「べきだ」の後ろの形について

次に「べきだ」の後ろの形について見ていく。

表4 「べきだ」の後ろの形（総数8,051）

順位	表現	出現数	割合
1	だ	4139	51.4%
2	で	1465	18.2%
3	な	1160	14.4%
4	だっ	587	7.3%
5	だろう	556	6.9%

表4から分かるように、もっとも多いのは「べきだ～」であり、全体の約51%を占めている。その中でも、「べきだと～」（1,910例）が最も多く、次の例(15)のように「べきだと思います／思う」（727例）という表現で多く用いられている。

- (15) 本には書かなかったのですが、個人力を持つための一つの大きな戦略として、個人商店は食品加工所になるべきだと思います。（『有機農業と食ビジネス』PB36_00130）

「べきだと～」に後続する表現の中で二番目に多いのは「べきだと考えます／考える」（156例）である。このことから、「べきだ」は「考える」よりも「思う」と一緒に使われることが多いことが分かる。さらに、「べきだ。」という言いきりの形で用いられている例はあまり見られなかった。

「べきだ」の後ろの形で2番目に多いのは「べきで～」であり、その中でも次の例(16)のように「べきであろう」（637例）が最も多く用いられている。「べきであろう」と「べきである」（184例）を比べると、「べきであろう」は「べきである」の約3倍以上多く用いられている。このことから、「べきだ」は言いきりの形で使われるのではなく、「べきだと思う」や「べきであろう」という形でよく使われていることが分かる。

- (16) 税関係が誤って侵害物品と認定した場合には、国家賠償を請求することも可能であるが、税関の審査能力を考慮して責任の有無を判断すべきであろう。

（『知的財産法』LBn5_00058）

以上から、「べきだ」の後ろの形について次のようにまとめることができる。

- ・「べきだ」の後ろの形で最も多いのは「べきだ～」であり、その中でも「べきだと思います／思う」という形で最も多く用いられている。
- ・「べきだ。」という言いきりの形で使われることは少ない。

3.3 「べきだ」と共起する副詞について

市川（2007：214）は、「べきだ」と結び付く副詞は「べきだ」が肯定形をとるか否定形をとるかによって異なっていると述べ、「べきだ（肯定）」と結び付きやすい副詞として「絶対に、ぜひ、ただちに、きちんと」などを挙げ、「べきでは／じゃない（否定）」と結び付きやすい副詞として「決して、絶対に、二度と」などを挙げている。

今回の調査で、「べきだ（肯定）」と共起する副詞として最も多かったのは「もっと」であり、次の例(17)のように筆者の主張を強調する際に使われている。次に多いのは「やはり」であり、次の例(18)のように、「この委員会できちっと具体的に明らかにしていただきたい」という主張を、再度主張する際に「やはり～べきだ」という表現が用いられている。

- (17) ただ「援助を行う」のではなく、その後の「使われ方」や「影響」について、私たち一人一人がもっと関心を持つべきだし、政府もきちんとした評価を公開すべきだと思うんです。（『現代』PM11_00378）
- (18) おそれという言葉が出てきました。このおそれという程度が都道府県によってちぐはぐになるんじゃないかと私は思うんです。道路一つ挟んで、県境をまたいで全然対応が違うよということも出てくるんじゃないかというふうに私は思います。おそれという言い方自体極めてあいまいなわけでありまして、この委員会できちっと具体的に明らかにしていただきたい。政省令で定めるというのは答えになりません。要するに、土壤汚染による健康被害を生じるおそれがある土地の調査が必要となしに的確に実施されるようにということがこの法律案でありますから、やはり明らかにきちっとしておくべきだと思います。（国会会議録 OM61_00002）

3.4 「べきだ」のレジスターについて

「べきだ」のレジスター（文章の種類）について見てみよう。次の表5では、「PMW（Per Million Words）」という100万語あたり何度出現するかという調整した単位を使って比較を行う。

表5 「べきだ」のレジスター

順位	レジスター	PMW
1	国会会議録	268.2
2	出版・新聞	213.5
3	出版・書籍	111.2

表5から分かるように、「べきだ」は国会会議録で最も多く用いられている。次に多いのが新聞であり、さらに書籍が続く。多くの先行研究で、「べきだ」は書きことばだけでなく、話しことばでも用いられることが指摘されているが、今回の調査からも、「べきだ」は書きことばと話しことばの両方で用いられていることが分かる。

3.5 「べきではない」について

さらに、「べきだ」の否定形「べきではない」について見ていく。まず、「べきではない」の前接語で最も多いのは「す」であり、「べきだ」と大きな違いはない。次に、「べきではない」の後ろの形に注目すると、一番多いのは「べきではなかった」（86例）であり、例(19)のように学校に一人で来たことを後悔する気持ちを表している。二番目に多いのは「べきではなく、～」（56例）、三番目に多いのは「べきではなからう」（14例）であり、「べきではない。」という言葉

いきりの形ではほとんど使われていない。

(19) やはり、こんな古い建物を使用する学校に一人で来るべきではなかった。

(『背信の罪深きアリア』 PB39_00476)

また、日本語記述文法研究会 (編) (2003 : 105) も指摘しているように、「べきだ」の否定の形は「べきではない」であり、「べきだ」の前に否定の「ない」がくることはない。

(20) 嘘はつくべきではない。

(21) *嘘はつかないべきだ。 (日本語記述文法研究会 (編) (2003 : 105))

しかし、今回の調査で、「V ないべきだ」という表現が 11 例見つかった。その内訳は次のようであった。

- ・「V るべきか、V ないべきか」… 5 例
- ・「V ないべきですか/でしょうか」… 4 例
- ・「V ないべきか否か」… 1 例
- ・「V ないべきなのです」… 1 例

さらに、「V ないべきだ」のレジスターを見ると、「Yahoo!知恵袋」が 8 例、「Yahoo!ブログ」が 1 例、「文学」が 1 例、「雑誌 (タウン・情報誌)」が 1 例であった。次の例(22)と(23)は「Yahoo!知恵袋」からの例である。

(22) 質問

こんにちは。自分は今中 3 です。僕は今好きな人がいます。その人のことを思い出すと胸が痛く苦しいような感じになります。やはり今は告白はしないべきでしょうか? それとも中学終わるまでにしたほうがいいですか? 多分違う学校に行くことになると思います。(Yahoo!知恵袋 OC09_05029)

(23) マメだった人からの連絡が少なくなるのって、どういう時ですか?

別れの前兆として受け止め、連絡しないべきですか?

(Yahoo!知恵袋 OC09_01773)

今後、「V ないべきだ」という表現が増えていく可能性がある。

4. 類義表現との比較

先行研究で指摘されているように、「べきだ」の類義表現に「なければいけない」「はずだ」「ほうがいい」などがある。以下では、中俣 (2014) を基に「なければいけない」の前にくる動詞や「なければいけない」が多く出現するジャンルについて概観し、「なければいけない」と「べきだ」の類似点・相違点について考察する。

中俣（2014：173）によると、「なければいけない」の前には次の表6のような動詞が多く出現している。

表6 「なければいけない」の前にくる動詞（出現数1,936）（中俣2014：173）

順位	動詞・助動詞	出現数
1	する	298
2	考える	93
3	やる	81
4	つける	38
5	行く	37
6	なる	32
7	見る	30
8	払う	29
9	注意する	27
10	作る	25

上の表6と以前に見た表2を比べると、「なければいけない」に前接する動詞は、「べきだ」と大きく変わらない。一番多いのは、両表現ともに「する」である。

次に、「なければいけない」が多く出現するジャンルを見ると、次の表7のようになる。

表7 「なければいけない」が多く出現するジャンル（中俣2014：175）

順位	ジャンル	出現率
1	書籍	47.62%
2	国会会議録	20.92%
3	Yahoo!知恵袋	14.05%

「べきだ」「なければいけない」はともに国会会議録で用いられているが、「べきだ」はより国会会議録で多く使われている。「べきだ」と「なければいけない」は書きことばでも話しことばでも用いられる表現であるが、「べきだ」のほうが「なければいけない」よりも話しことばで多く使われると考えることができる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、評価のモダリティを表す助動詞「べきだ」について次のことを明らかにした。

●前接語について

- ・「べきだ」は動詞が前接することが多く、全体の約84%を占めている。
- ・前接する動詞は様々であるが、その中でも「す」が最も多く前接し、「～にすべきだ」という形でよく用いられている。
- ・「べきだ」に助動詞が前接する場合、「(ら)れる」が多く用いられている。

●後ろの形について

- ・「べきだ」の後ろの形で最も多いのは「べきだ～」であり、その中でも「べきだと思えます／思う」という形で最も多く用いられている。
- ・「べきだ。」という言いきりの形で使われることは少ない。

●共起する副詞について

- ・「べきだ（肯定）」は「もっと」「やはり」と共起しやすい。

●レジスターについて

- ・「べきだ」は国会会議録で多く使われている。
- ・「べきだ」は書きことばでも話しことばでも使われる。

今後の課題は、「べきだ」の類義表現である「なければいけない」「はずだ」「ほうがいい」等について、コロケーションとコンテキストに注目し、それらの表現の前後にどのような表現がよく共起するのか、どのようなレジスターで使用されているのか等を明らかにし、類義語間の違いを明示することである。

注

1 現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言, Ver. 2. 1. 0, 国立国語研究所, 2015.

なお、データは中納言の長単位検索を利用して収集した。

2 「べきである」は「べきであるという要望／要求」という表現をとらない。

3 「べきだ」に前接する形容詞の例は次の1例のみであった。

(24) 「成阿弥陀仏」すなわち「角張成阿弥陀仏」とすることに、異論はなかるべきなのである。 (『評伝角張成阿弥陀仏』PB41_00153)

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク。

市川保子 (2007) 『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク。

グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版。

高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究—』くろしお出版。

友松悦子・宮本淳・和栗正子 (2010) 『新装版 どんときどう使う 日本語表現文型辞典』アルク。

中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版。

日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版。

朝日大学留学生別科